

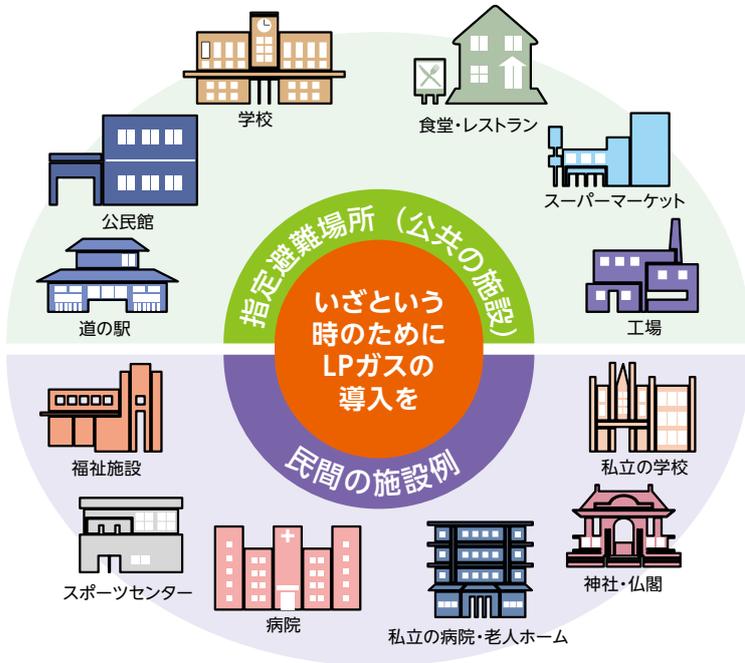
# 普段から備えて使うLPガス



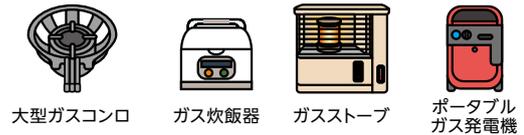
## 災害対応への取組み

## 防災の拠点にこそ、LPガスの常設設備の導入を

公共施設・指定避難所・病院・学校へのLPガス設備導入が災害対策に有効です。  
また、都市ガスエリアでのLPガス設備導入についての提案も行なっています。



### 避難所(小中学校、公共施設等)における災害対応バルクの設置イメージ



災害時に接続



既設配管



### 災害対応型LPガスバルク供給システム

「災害対応型LPガスバルク供給システム」とは、LPガスのバルク貯槽と、供給設備(ガスメーター、ガスホース、圧力調整器など)・消費設備(煮炊き釜、コンロ、暖房機器、発電機など)をセットにしたものです。地震や津波など大規模災害により電気や都市ガス等のライフラインが寸断された状況においても、LPガスによるエネルギー供給を安全かつ迅速に行うことを目的として開発されたシステムです。

### 地方公共団体と各県LPガス協会では協力体制を進めています。

各県LPガス協会では、災害時におけるLPガスの安定供給を図るために、地方自治体との防災協定の締結を積極的に推進しています。この協定には、避難所へのLPガス供給はもとより、供給・消費に必要な設備・機器等の提供等、緊急時に安定的に使っていただくために必要な施策が織り込まれています。



### 地方公共団体へLPガス防災機器等の導入提案をしています。

災害に対する備えとして、避難所等へのLPガス及びLPガス防災関連機器等の導入を提案しています。



山崎町長への導入提案  
(2014年:飯石郡飯南町)



山内町長への導入提案  
(2014年:隠岐郡海士町)

#### 事例1 [小学校の取組例]

小学校の改修時に、従来のLPガス容器に替えて据え付け型の大容量タンクに変更。これにより、災害時であっても、7日間の調理等が可能に。



写真:所沢市立南小学校の例

#### 事例2 [企業の取組例(駅弁の製造業)]

都市ガスの供給エリア内であっても、地震等の災害における7日間程度の事業継続を見越して、新築時に、LPガス容器を設置。



写真:株東華軒の例

日頃から防災について話し合うことが大切です。役割を分けて、普段からLPガスを活用しましょう!